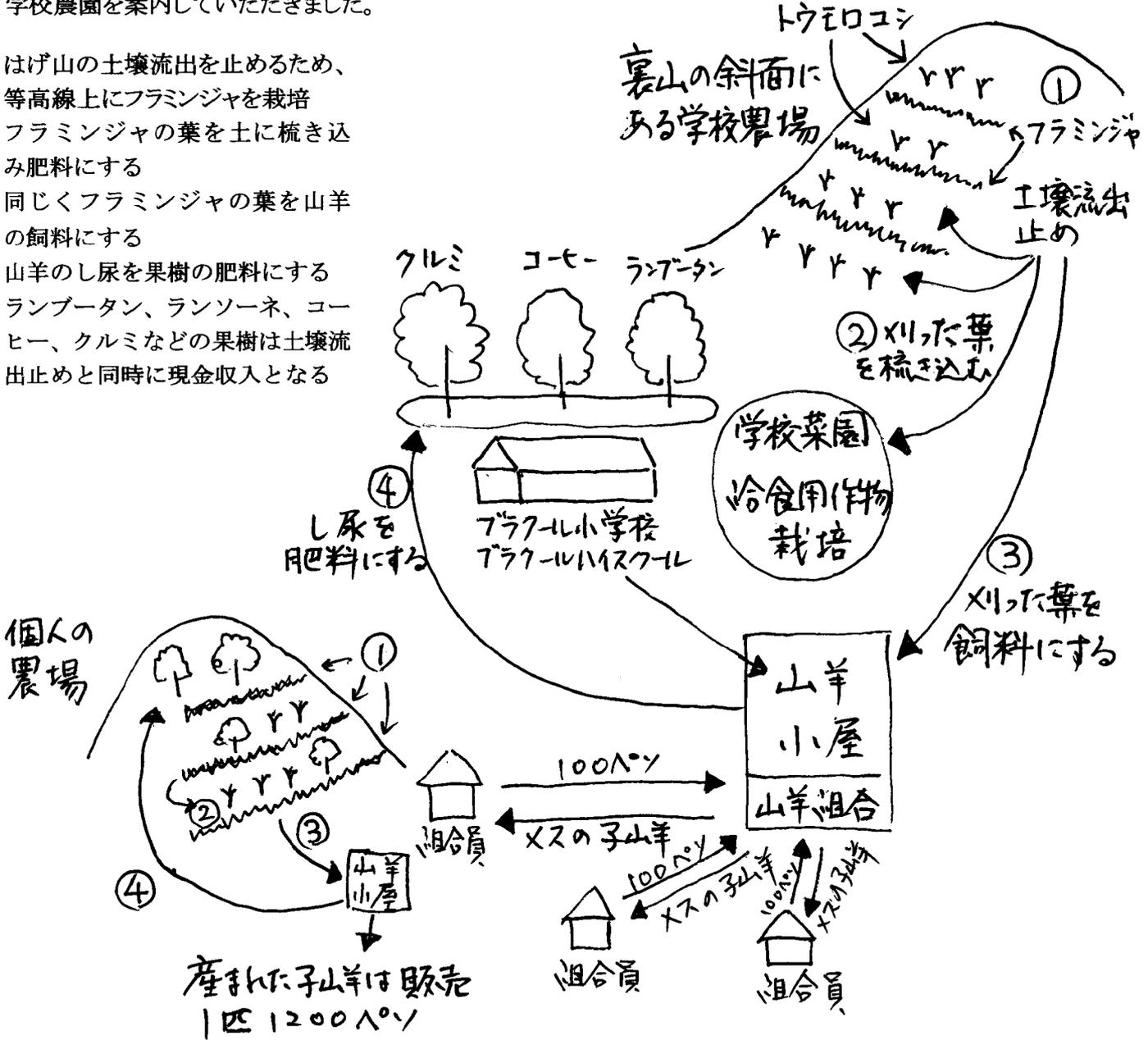


*** ブラクール特集 ***

ブラクールはチボリ、マノボ民族からなるコミュニティ。スルタンダラット州の州都イスランから山道を車で2時間と徒歩で30分かかります。持続可能な循環型有機農業の状況と医療について伺ってきました。

昨年は干ばつにみまわれ作物の出来が悪かったブラクール。
 住民組合は活発に活動しているのに、暮らしぶりは良くなりません。
 ブラクール高校のジェームズ先生(農業担当)に
 学校農園を案内していただきました。

- ① はげ山の土壌流出を止めるため、等高線上にフラミンジャを栽培
- ② フラミンジャの葉を土に梳き込み肥料にする
- ③ 同じくフラミンジャの葉を山羊の飼料にする
- ④ 山羊のし尿を果樹の肥料にする
- ⑤ ランブータン、ランソネ、コーヒー、クルミなどの果樹は土壌流出止めと同時に現金収入となる



「この循環システムは有機的であるだけでなく、エコロジカルバランスがとれています。私たちはまず土が大切であることを学びました。地味が肥えていれば、植物は健康に育ちます。化学肥料は高価です。また果樹は早く収穫できるよう、手入れを適宜行っています。ほっておいた場合は通常収穫まで6年かかりますが、学校のアグロフォレストリーの果樹は5年で収穫できます。1999年に植えたランブータンとコーヒーはすでに収穫しています。このシステムを知る前は、フラミンジャの葉は捨てていました。また土に肥料をやることもしていませんでした。それは土にとっても良くないことです」(ジェームズ先生)